

# 記事切り抜き 親からひと言

宮城県松島町の松島二小(児童145人)は11月、「全校新聞スクラップ展覧会」を開催した。1〜6年の全児童が新聞記事をスクラップし、保護者にコメントを寄せてもらった作品を展示した。

同校は教育に新聞を生かす日本新聞協会のNIE実践指定校となっている。担当の秋場文東教諭(51)が、新聞を購読する世帯が減る



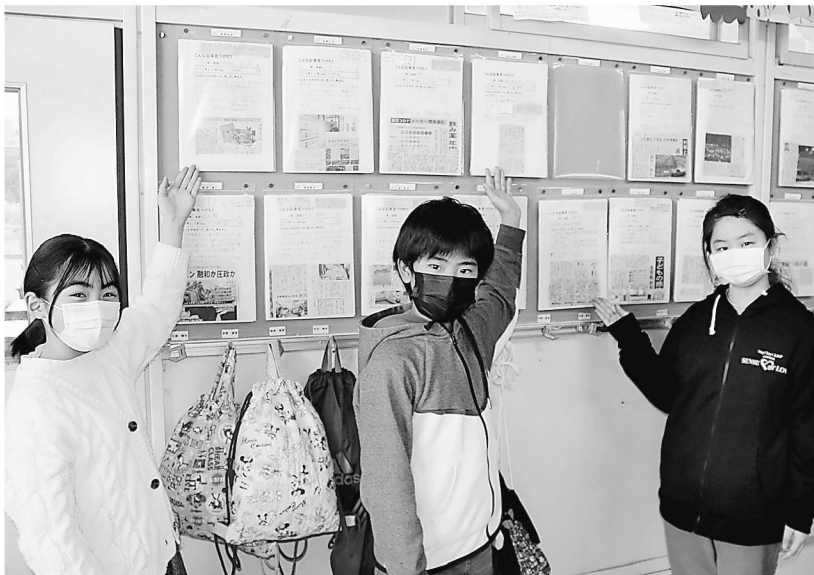
中、家庭を巻き込んで児童が新聞に親しむ機会を確保しようと企画した。

児童たちは学校に届いた新聞を読み、気になったり面白いと感じたりした記事を選択してスクラップ。記事を選んだ理由と、分かったことを記入した。さらに家に持ち帰り、保護者にひと言メッセージを書いてもらった。

作品は11月17日の授業参観に合わせて校内に展示された。地元・松島の話題やプロ野球、パンダの命名、コロナの出荷、新型コロナ対策など、児童が選んだ記事は十人十色だった。

6年の小松誠人君(11)は多賀城市で開催された恐竜展の記事を選んだ。「宮城

## 宮城・松島二小 全校スクラップ展 新聞、家での会話促す



廊下に掲示された自分のスクラップ記事を示す松島二小の6年生

で魚竜の化石が発見されたことが分かり、勉強になった」と話す。親からは「もしかしらたら家の下にも化石があるかも、とワクワクしました」とコメントをもらった。

同校によると、授業参観後、保護者からは「子どもが選んだ記事を読み、会話

をする機会を持てたのは貴重だった」などの感想が寄せられた。秋場教諭は「親のコメントがあれば子どもたちの励みになると考え、全校でチャレンジした。子どもが興味を持っている分野に親が気付くなど、さまざまな効果があった」と手応えを感じている。